



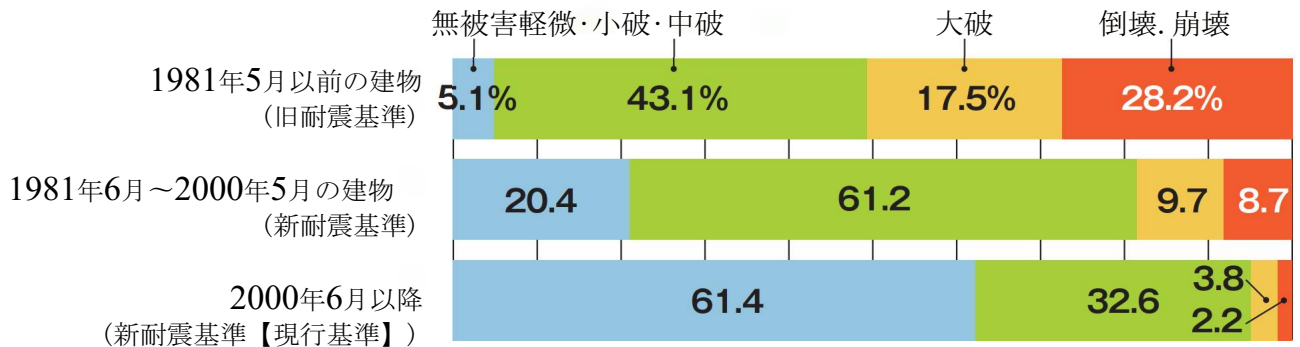
最近地震が多いけど、 わが家は大丈夫かな…?

古い住宅だけに、いざ大きな地震がきたら壊れないか不安です。

ご存じ
ですか？

建築時期によって、耐震性能に開きがあります

■ 2016年熊本地震における木造住宅の建築時期別被害状況



出典：国土交通省「熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会報告書」

日本では、1981年6月の建築基準法改正前に建築確認を受けた「旧耐震基準」の建物と、それ以降の「新耐震基準」の建物に大きく分けられます。2000年にも建築基準法が改正され、耐震基準の規定がより細かくなりました。建築時期が新しいほど耐震性能は高いといえます。

グラフは、2016年4月の熊本地震での木造住宅の被害を建築時期別に表したものです。地盤等の要因も考えられ

ますが、建築時期が古いほど倒壊・崩壊や大破の割合が高いことがわかります。無被害で済んだ建物の割合も、2000年以降の木造住宅が61.4%なのに対し、1981年5月以前の建物はわずか5.1%と10倍以上の開きがあります。

熊本地震では、長期間の避難生活等による震災関連死者数が直接死者数の約4倍でした。大地震に遭っても引き続き自宅で生活できるよう、耐震性能を高めたいものです。

こうして
解決！

耐震リフォームで壁や柱、基礎などを強化します

■ 筋かいを入れて補強する



■ 強い壁を増やす



■ 耐震金物で固定する



■ 基礎を補強する(施工中)



地震に不安のある住宅は、適切な補強工事を行い、耐震性能を高めます。一般的な木造住宅は、柱と梁、壁が一体となって地震に耐える構造なので、柱の間に筋かいを入れたり、柱や耐力壁を増やすなどして強化します。

柱や梁、基礎とその上の土台などの結合部は、耐震金物

などでしっかりつなぎ合わせます(「緊結」といいます)。柱や梁、基礎などに傷みがあれば、併せて補修や交換も行います。

他に、屋根を軽量の素材に変えたり、減築などによって耐震性能を高める方法もあります。